



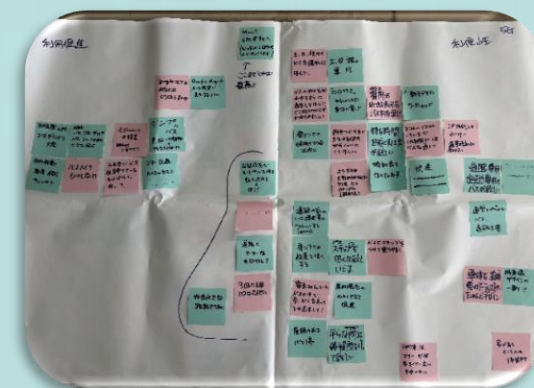
みんなで考えよう プロジェクト



つながり、つながる、ひろがる

誰もが住み慣れた場所で、
安心して暮らし続けることができる。
そんな地域をつくるため、大町市内で暮らす
さまざまなみなさんにつながり、考え。
そして共に地域を動かすプロジェクトです。

報 告



2025.1.22

参加者：44名

ワーク ①

提言(ていげん)を作成しましょう

※提言：考え・意見をみんなの前に示すこと

利便性の向上について

ふれあいバスの
構造や機能的な
改善の提言

利用促進について

知名度の向上、
イメージアップのための
企画など

利便性の向上について

■バスの車体への工夫

- ・側面に行先を表示
- ・色分けされた路線図の色を車体カラーに取入れる
- ・大人から子供、外国人でも分かる車内の案内表示
- ・乗り降りしやすいバス

■バスの待ち時間対策

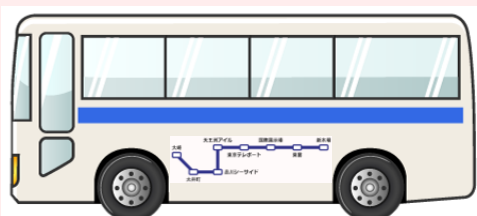
- ・時間の使い方、楽しめる場所等の提案

■バス停に関すること

- ・主要な行先（スーパー、病院など）への所要時間、到着時間、戻るまでの時間を誰もが分かる形で明示。

・活用例の表示

- ・雨、風、日差しをしのげる停留所



① 平(青木方面)コース	■
② 平(源汲方面)コース	■
④ 平(高瀬入方面)コース	■
⑤ 常盤(清水・西山方面)コース	■
⑦ 社・常盤コース	■
⑧ 八坂コース	■
⑨ 八坂地域振興バス	■
⑩ 美麻コース(川手線)	■
⑪ 美麻コース(境の宮線)	■
⑫ 循環線(南コース)	■
⑬ 循環線(北コース)	■

■バスの運行に関すること

- ・自宅前で乗れる（料金変動あり）
- ・定期券やパスポート
- ・快速バスを設定
- ・病院(大町・あづみ)への直行便（受診時間を考慮した運行）
- ・高校生の通学専用バス（JR乗継を考慮）
- ・沿線住民がバス停の場所を決める
- ・予約制
- ・デリシアの買い物バスと連携
- ・目的別バスの運行

■情報取得に関すること

- ・観光客向けGoogleやYahoo!の電車時刻表と連動した情報提供
- ・スマホで簡単に即時情報が確認できるような仕組み
- ・時刻表の改善

■利用料に関すること

- ・乗った回数で1回無料になる仕組み

■運休日の対応

- ・各種イベントや学校行事等がある日は、状況に応じて運休日も運転

利用促進について

■バス利用方法の紹介

- ・バスを利用している人の目的や利用方法を、地域の情報として市民に周知
- ・乗り継ぎを含めて、目的地別モデルコースを提案。（ターゲット別：高齢者、学生や子供、観光客など）
- ・移住者や子育て中で孤立する母親の困りごと、ニーズに寄り添える利用方法の提案

■市民バスを選択肢のひとつに

- ・イベントの日に合わせてバスを利用する
- ・通勤に市民バスを利用する日を作る

■利用促進企画

- ・飲食店と提携してバスを利用して来店した人への特典
- ・お試しチケット
- ・お祭りやイベント時に無料運行
- ・バスの乗車体験会（定期開催、CATV番組化）
- ・コースグランプリ大会開催
- ・自治会単位でバスハイク
- ・ダンプバス運行（大町駅～扇沢行をアトラクション化）

ゆるBASE ALPおっさんの会・Team ALP

代表 向井さんの活動紹介



イベントの開催に 向けた移動支援



移動支援勉強会

イベントの送迎



みんなで 考えようプロジェクト



現在 準備中



ゆるBASE ALPおっさんの会・Team ALP

代表 向井さんの活動紹介



- ・ALPおっさんの会は、2023年4月からスタートした「男性の居場所づくりの会」。5つの市町村から40歳代～96歳までの41名がメンバーとして参加しています。
- ・いきいきと生活していくことを目的に、循環型のプロジェクトを行っており、2025年1月現在で、延べ約2,400人の方が関わってくれました。
- ・活動する中で、移動支援の必要性を実感。
…イベントに行きたいけれど移動手段がない …免許返納するとマレットゴルフや体操教室に行けない との声を聞く
- ・移動支援勉強会に参加「住民主体による高齢者の移動・外出支援のしくみ」について学びました。
- ・昨年7月に開催したイベントに、移動手段がなく送迎を希望している人を募集し、実際に移動支援を実施しました。利用者は1人でしたが「イベントに参加できて楽しかったです。ありがとうございます。」と書いていただきました。
- ・この「みんなで考えようプロジェクト」の、バスハイクを通して、あづみ病院へ公共交通機関で行くことは大変だが、ニーズはあるのだろうという感覚を得ました。
- ・2025年春以降のスタートを目指して、移動支援サービスを始動してみようと、現在準備中です。主には、あづみ病院や大町病院への送迎を考えています
- ・2024年11月下旬から週3～4日間、7～8名の送迎のお手伝いを、午前2時間・午後2時間をし、送迎の経験を積み重ねています。



みんなであれ考えよう
プロジェクト

ワーク ②

お金がかからず
身体不自由でも移動に困らない方法について

- ・可能・不可能 問わず たくさんのアイデアを出してください



みんなであれ考えよう プロジェクト

移動支援の仕組みづくり

- ・乗せられる人、乗りたい人のマッチングアプリ
- ・支援団体(協議会)のような母体を作り、専用保険を活用し、安心して乗せて乗れるようにする。
- ・登録会費制で運営
- ・人材確保(子育て中のママなど)
- ・車両の確保

ヒッチハイク

行き先が同じ人との
乗り合いタクシー

ご近所同士の
乗り合い

所得に応じたタクシー券の配布



通所サービス、学校、企業の
車(空き時間)を活用する

セニアカーのレンタル

ウーバータクシーの導入
(先進地:軽井沢)

タクシー料金の割引

お店や病院側での
送迎の手配

駅前に市営住宅を作る
(スーパー、銀行、病院が徒歩圏内)

基本的人権として移動する権利を保障

→ 市民の義務として納税

→ 移動特区を作り徹底した移動の利便性向上を図る(区域内住民は新たな税金を負担)

まとめ



- バスハイクを通して得られたものを、「利便性の向上」「利用促進」に整理し、グループごと提言を考えることを目的に話し合いをしましたが、前回のプロジェクトでも出ていた提案が、より肉付けされ具体的で端的な内容となって挙げられました。これを提言として、市全体へこの活動を届けたいので、今後「伝え方」を検討していきます。
- ゆるBASE ALPおっさんの会・TEAM ALP 代表 向井氏のお話を聞いて、参加されている他の皆さんの中にも、何か始めてみたいという思いが生まれた方が、たくさんいらっしゃれば良いなと思っています。
- 公共交通機関の「利便性の向上」と「利用促進」を考えていくことと同時に、それでは担いきれない市民のニーズをできるだけ多く拾い上げられるような移動の方法も、これまで参加者の皆さんと考えてきましたが、本格的に1歩でも進められるような動きを取っていくことが重要と考えています。

次回開催日程

日時: 令和7年3月17日(月)午後1時30分

会場: 大町市役所 西庁舎 西会議室

★日頃から気軽に利用できる移動方法に実現に向けて

★「みんなの力でやってみたいこと」や「こんなことできたら面白そう」といった地域でできることについて

上記をテーマに、気軽に話しながら、みんなで考えていきます。